

『心レンズとヘルスマーター？』

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



「先生、この前、心レンズの検査したら脈が遅いと言われて、ヘルスマーターを入れてもらった。」外来のこのような会話はとてもなごみますが、正しくは「心電図」と「ペースメーカー」です。

心臓は自らの電気信号によって収縮と拡張のリズムを保っていますが、加齢などによって、電気信号が発生しなくなったり、伝達が悪くなると徐脈（脈が遅くなる）となります。意識を失うなどの危険な症状を伴う徐脈に対してはペースメーカーの植え込み手術が行われます。ペースメーカーは徐脈を感知するとすぐに心臓に電気刺激を送り、心臓を収縮させ、心拍数を確保する装置です。自分の心臓が一定の心拍数を保てていればペースメーカーは何もせず監視を続けるだけです。

よくペースメーカーは心臓にとって万能の機械であり、ペースメーカーさえ植え込めば全ての心臓病が良くなると思われがちですが、あくまで一定の心拍数を確保する装置に過ぎませんので、他に心臓の持病がある場合はペースメーカー治療だけでは解決できません。

ペースメーカーの植え込み手術は局所麻酔を用いて、2時間程度で終わる手術です。植え込まれた方は日常生活に大きな制限は必要ありませんが、定期的な検査と5～10年毎の電池交換（簡単な手術）が必要になります。また携帯電話等の電磁波に影響を受けたり、MRI検査ができなくなっていました。最近ではMRI検査も可能なペースメーカーも開発されています。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000